

第31回 五胡十六国時代と北朝

1 五胡十六国時代

- ・華北では、()、()、()、() () など5つの異民族が侵入し、小さく短命な王朝をたくさん建国した。
- この時代の華北を()という。

☆前秦 (351～394 年)

- ・五胡の氐が建国し、一時的に華北を統一したが、淝水の戦いで東晋に敗れた。

☆ () (386～534 年)

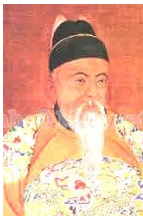
都… () ※現在の大同

◆拓跋珪 (道武帝) (在位 386～409 年)

- ・五胡十六国時代の混乱の中から、()の () が力をつけ、北魏を建国した。

◆ () (在位 423～452 年)

- ・439 年、華北 (中国北部) を統一した。
- ・442 年、新天師道を開いた () を重用して () を国教化し、仏教を弾圧した。



孝文帝

政策の内容については、賛否両論ある。改革は評価されるが、北魏分裂の要因を作ったとも。

◆ () (在位 471～499 年)

- ・ () を行い、鮮卑の伝統的な服や言葉を禁止し、中国風にした。
→鮮卑は漢民族に同化していったが、反発する鮮卑の人も多かった。
- ・494 年、都を平城から () に移した。
- ・485 年、豪族の大土地所有を抑えるため、農民に一定の土地を与えて、その土地をもとに徴税を行う () を導入した。
※奴婢や耕牛にも土地を支給した。
- ・戸籍の調査や徴税を行うため、() という村落制度を導入した。



2 隋の統一

- ・534年、北方のモンゴル系民族（ ）に対して置かれていた駐屯地（鎮）が六鎮の乱を起こし、北魏は（ ）と（ ）に分裂した。
→その後、西魏は（ ）に、東魏は（ ）に代わった。
→北周が華北を統一した後、581年、北周にかわり隋が建国された。



楊堅(文帝)
とにかく奥さんが怖かった。浮気厳禁！

☆（ ）(581～618年)

都…（ ） ※現在の西安

◆（ ）(在位 581～604年)

- ・北周の外戚であった楊堅が、禅譲を受けて隋を建国した。
- ・6世紀の北方では、柔然にかわりトルコ系の（ ）が強力となった。
→583年、突厥を破って東西に分裂させた。
- ・589年、南朝の（ ）を滅ぼして、久しぶりに中国を統一した。

<隋の中央集権体制>

- ・土地制度は、北魏以来の（ ）が採用された。
※北魏のころとは異なり、豪族への配慮はされなかった。
- ・均田制にもとづき、（ ）という税制が実施された。
- ・均田制にもとづき、西魏以来の（ ）という兵制が採用された。
→土地を支給された農民の中から、戸籍にしたがって兵士が集められた。
- ・人材登用制度では、（ ）に代わって（ ）を始めた。
→公正な学科試験を行うことによって優秀な人材を集め、豪族や貴族が政治を牛耳ることを防いだ。



煬帝
本名は楊広。名君の要素もあったが、結果的に暴君になってしまった。最後は現実逃避に…。

◆（ ）(在位 604～618年)

- ・父の楊堅（文帝）が着手していた（ ）を完成させた。
→南北に分裂していた中国の経済・文化・政治を結びつけることができた。
→しかし多くの民衆を強制労働させたため、民衆の不満は急速に高まった。

<煬帝の対外政策>

- ・607年、倭の摂政である（ ）から遣隋使が送られた。
- ・611年以降、3度の（ ）を行うが、全て失敗した。
→これをきっかけに各地で反乱が起こり、618年、隋は滅亡した。



大運河

黄河～淮水を結ぶ通済渠と、黄河～涿郡(北京)を結ぶ永済渠が有名。21世紀の現在でも中国経済の大動脈である。



聖徳太子(厩戸王)

最近は実在しなかったという説もある。「日出する処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや」という文は、やってくれましたという感じ。